

1)参加団体名 九州大学 研究室名 宇宙機ダイナミクス研究室 SCOREs

2)参加メンバー 宮崎一樹 眞庭知成 永野誠也

3)目標としたこと 発表ファイル参照

4)苦労したこと、工夫したこと

今回、画像撮影が私たちの大きなミッションでありましたが、画像取得、圧縮、保存の作業を1つの安価なマイコンで行ったためマイコンのスペックぎりぎりの設計となってしまいました。そのためプログラムの容量を減らすなどのミッションとは関係ないところで時間を消費しなければならなかったところで苦労しました。また工夫した点としてはそれぞれの部品の大きさと搭載位置、さらには配線のしやすさを考慮してハードの設計を行った点です。そのため私たちのカンサットは投下前、後の準備やメンテナンスがしやすいため無駄な時間ロスが少なくて済みました。

5)結果と感想・反省・今後の抱負など

結果は一回目168m・二回目171mとなり、カムバックコンペとしての結果は振るわないものでした。

しかし、サクセスレベル90%以上と、機能の確認については大変満足のいく結果を得ることができました。

ターゲットまでの距離が遠いのは、パラfoilが大きかったのが原因であると考えております。

ARLISSでは能代以上に強い風が吹いていると聞いているので、その対策として、パラfoilを現在開発中の小さなパラfoilに変更してARLISSに臨みます。能代コンペでの経験を生かし、ARLISSでも自分たちが納得できる結果が残せるように頑張りたいと思います。

